

より良いケアをしたいという想いをこめて・・・

ウエル

ケア

Well Care

2002年 2月15日 7号

発行：自治労大阪公共サービスユニオン

大阪市北区天神橋3 9 27PLP 会館1階

TEL 06-6242-2233

FAX 06-6242-2230

ケアワーカーのための ホームページ 介護ワーカーズネットワーク スタート



イメージキャラクターの
愛称募集中です

自治労大阪公共サービスユニオンは、ケアワーカーに対して介護に関する情報提供やケアワーカーセミナー開催のお知らせ、介護労働相談、そして、意見交換がインターネットを通じてできるようにホームページ「介護ワーカーズネットワーク」を立ちあげました。

自治労大阪公共サービスユニオンでは、これまで電話相談をはじめとした労働相談を行ってきました。その中で、登録ヘルパーの方から「直行直帰なので仕事の悩みなどを相談できる同僚ヘルパーがいない」「相談や会議などのできる十分な時間がとれない」「自分が行っているサービスの内容に自信が持てない」という声が多く寄せられました。こうした悩みの解消に少しでも役立つようにと今回ホームページを開設しました。

ホームページは、最新情報・ケアワーカーセミナーの案内・介護労働 Q&A・掲示板・公共サービスユニオンの紹介などからなっています。

掲示板(BBS)は、皆さんが日頃悩んでいることを打ち明けてアドバイスを求めたり、介護技術の向上に向けた情報の交換などに使ってもらえればと考えています。また、今後、開催して

ほしいケアワーカーセミナーのテーマなどについても書き込みをしていただければ、開催に向けて努力していきたいと思っています。

さらに、ホームページを通じて自治労大阪公共サービスユニオンへの加入手続きができるようになっていきます。

最新情報など、更新を多くしていくことで、ケアワーカーのニーズにあったホームページにしていきたいと思っていますので、どんどんアクセスしてもらいますようにお願いします。

ホームページアドレス
<http://kaigo.jichiro-osaka.gr.jp>

**メールマガジンも
発信しています**

自治労大阪公共サービスユニオンは、介護に関する情報やケアワーカーセミナーの情報などを、1月から毎月1回程度メールマガジンでお知らせします。発信を希望される方は、自治労大阪公共サービスユニオンのメールに申し込みをお願いします。

メールアドレス：kaigo@ns.jichiro-osaka.gr.jp

ケアワーカーセミナー 痴呆性老人に よりそうケア

- 講演記録(後編) -

昔のことはよく覚えていると言いましたけれど、特に手続き記憶というのがあって、身体で覚えている記憶は残ります。例えばピアノをずっと弾いていた方は、曲の名前は分からなくてもピアノの前に座ったら弾かれるとかです。身体で覚えたことはなかなか忘れないので、それを使ってできるだけ残っている能力が落ちないように働きかける。その方が好きなこと、昔しなれたこと、得意だったことを使って働きかけるわけです。それは各個人によって違います。生活歴だとか、職歴だとか、趣味だとか、好みだとかによって違いますので、個別対応をしなければいけないわけです。

愛情に基づいた嘘

何もできないからといって一人で孤独に放っておくと、本人も何かしたいという目的を自分で作り出して動くということをしなくなるので、身近にあるものを破ったり、布団のカバーを破ったりとか、破衣という問題行動がよく起こります。ですからその方のできることを、お好きだったことで働きかける。お仕事をしてもらおう。農家のおばあさんの場合はお豆の選別をしていただく。頼まれて人の役にたてると思ったら誇りに思いますよね。一生懸命に選別なさるからはかどって、選別していただくお豆がなくなっちゃった、どうしましょう。結論は、けしからんことだと思われるかもしれませんが、選別されたお豆をもう一度混ぜて「お願いします」と。だから痴呆の方の介護には演技とか、工夫とか、愛情に基づいた嘘が必要なんです。せっかく選別したのを混ぜてまだ選別できていないものとして、お願いしますというわ

◆ 講師紹介 ◆

おきしお
置塩 美子さん

精神科医。大阪市阿倍野保健所長、弘済院附属病院副院長などを経て、現在、大阪市こころの健康センターの非常勤嘱託医として勤務。

自分の母親を13年間介護して見送り、現在も痴呆のお姑さんの介護をされています。

けですから嘘になるわけですけど、それをしていただくことで顔が和やかになってニコニコになっていただくならそういうことも許されるというか、それを使わないと介護が成り立っていかないんです。だから、ものすごく生真面目に「そんな失礼なことをしたら申し訳ない」「嘘をつくといけません」とか考えていたらとても痴呆の介護はできません。例えば、盗られたと騒ぎはるとします。そのときに、「私はそんなもの盗っていません。盗るはずないでしょう」といっても、「ああそう、私勘違いしていたわ。ごめんなさい」には、絶対になりません。だから痴呆の方の介護は理屈の説得はだめです。脳血管性の場合、OKの場合もありますけど、原則的に説得はだめ。気持ちを受け止めて納得していただくんです。だから、自分の大事なものがなくなってどうしようと思っただけは不安を受け止めて、「それは無くなったら心配ですね。でも私は盗っていませんよ」と、さらっと言って「大変ですね。困っているんでしたら探しましょう」といって、一緒に探してあげるんです。そうしたらたいい出てきますよ。そこが痴呆の方ですね、私たちの物忘れは、変なところに置いたら後で困るから、分かりやすいところにラベルを貼ったり工夫するじゃないですか。痴呆の方は盗られたらたいいへんという瞬時の判断で動くから、分かりにくいところにしまわれるんです。「盗られたら困る」というその一点に集中するから。だから、いざ必要なときには探しても出てこないんです。ある方はソファとかベッドの下とか、大体決まっています。一緒に探してあげて「良かったですね、見つかった」と言ってあげる。盗られ

想も初期だけです。だんだん進行すると、悲しいかなそれも消えていきます。うちの姑も言いますよ。「権利書あんたのところにあるのと違う?」とか言うんです。「そんな大事なものは預かっていませんよ」と言っても、「持っていったはずや」と言われるんです。「金庫にあると思いますよ」といっても聞かないから、とうとう出してきたで預かっているから、心配になったら見せるからいつでも来てね」と言って安心してもらったんです。やはり不安いっぱい生活されているからそうなるんです。

夕暮れ症候群

もう一つ、夕暮れ症候群とか日没症候群とかよく聞きますよね。日没になったら落ち着きが無くなって、そわそわなさる。お昼不安なままにものごく緊張して過ごしてきたわけです。夕暮れになってくたびれているのと、薄暗くなってものの認知がしにくくなりますよね。それに人間の身体はお昼モードから夜モードに変わるんですね、神経支配が。脳の血流なんかも変わってくるということでその認知力が余計に落ちる。つまり不安も高まる状況で、お昼から夕方になるとまた落ちるんです。そしたら今いる家が自分の家と思えなくなるんですね。昔の懐かしい家、子どもが「ただいま」と帰ってきて、おじいさん(夫)ももっと若いはずですよ。周りの雰囲気も自分が安心できる家ではなくなっていますから、自分が安心できる家に帰りたくなるわけです。そのときにいくら家族が「おばあちゃん、この家に何年住んでいるの。おばあちゃんの家はここしかないよ、どこに帰るところがあるの」というのは理屈による説得です。だから帰りた、不安になっているという気持ちを受け止めて「もう帰りたいやね、でも

薄暗くて帰ってもらうの心配やからこれ食べて待っててください。そのうち用事が片付いたら送っていきます」と言うと、不安な気持ちを受け止めてもらえたわけです。これ食べて待



てたら送ってくれるんやと思ったら、食べてるうちに忘れちゃうんですね。弘済院でも入所してきたら夕方必ず帰りますとおっしゃいます。弘済院なんか特に自分の家と違うところに来てるから、なおさらです。そしたら寮母さんたちは「娘さんに連絡してあげるわね、一人では心配で帰らされへんわ」って電話するんです。娘さんの家には電話できないですよ、プロとして。家でできないからお預かりしてるのに。電話をかけるふりだけするか、下の事務所に電話して、「今忙しくて今日は迎えに来れないんやって。悪いけど一晩我慢してくれはる?」って寮母さんが頼むと、「しゃあないな。一晩だけやったら」って我慢してくれはります。あくる日になったらまた色んな行事があって楽しいし、寝て頭もすっきりしてるからそのまま過ごさる。また夕方になったら「帰る」とおっしゃるんです。それが1週間、10日と続くと寮母さんたちがやさしく受容的に接してくれて、そこがなじみの場所、自分にとって安住できるところだと感じられたら、もう言わなくなります。だから、いかにヘルパーさんがそのご老人となじみの関係をつくりあげていくかということですね。

ヘルパーさんはお客さん!?

このAさんはヘルパーさんに最初来ていただくようになったときに、娘さんが一生懸命説明したんです。ヘルパーという制度が新しい制度だからそのとき分かってても忘れてしまうんです。昔の制度だったら理解できるんですけど、ヘルパーさんの制度は最近の制度だから瞬間は理解できてもすぐ忘れる。それでヘルパーさんがあくる日に来たたらお客様だとAさんは思ったんです。「どうぞお上がりください」と紅茶をいれたりしてお客様として扱いなさったんです。そのときに真面目に「私はヘルパーとして来たんです」と言ってしまったらだめなんです。そのときは上手にお客さんになってくれたんです。それを上手に続けていくうちになじみの関係ができて、ぼちぼちとお掃除しにくいところをお手伝いしますという形でトイレとかお風呂とかをお掃除してくださるようになって、そしたらものすごくヘルパーさんが来てくださる

のを楽しみにするようになりました。娘さんもその間はヨガに行ったり、痴呆の介護をし終わった友達のところに愚痴を言いに行ったりして、心身の余裕を取り戻しに行けるのです。そういう風に演技ですね、お客さんになる。そういうことも含めて真面目に対応していたんでは、介護がなかなかうまく進まないということが痴呆の場合があります。

残っている機能で、女性は割といろいろあるんですよ。例えば、編物できる人だったら、形のあるものはできなくなります。目を減らしたりとか。だから、まっすぐのものをストーンと作っていただくんです、マフラーとか。それを家族に一本ずつ作っていただくんです。必ず家族に「ありがとうと言ってくださいね」とお願いします。人のために役立つことができた、喜んでもらえることができたと思ったら痴呆の方もやっぱりうれしいですよ。人の世話にばかりなって無用の長物だと思われるということで一日暮らすよりもです。だから、できるだけ毛糸をどんどん買ってきてもらうんです。それが行き渡って、もういらんという場合は、ちょっと幅を広めにして、つなぎあわせてひざ掛けにするんです。つなぎあわせるのは本人さんができないので、家族の方にしてもらおう。それから女の人だったら刻むことだけとかね。さっき言いました実行機能を障害されるというのはどういうことかといいますと、お料理なんかすぐできなくなります。お料理は案外難しいんです。ある目的を決めますよね、筑前煮をしよう、それには何々がいる。家の在庫と比べて買いに行かないといけない。刻み方もあって、炊いて、調味料の順番もある。足りない味は足さないといけないわけです。そういう機能はすぐにできなくなります。実行機能というのは割と早く、人によっては中期ぐらいでなくなる場合もあります。痴呆の男の方は、とっかかるものを持っていないことが多いんです。植木の水やりとかですかね。新聞記者の場合はスクラップを作ってもらいました。そのかわり社会部の記者でしたから自分の関心のある記事しかスクラップしてくれないんです。新しいことはインプットできないから。痴呆の方は他に

することがないから瞬く間にスクラップができていくんです。「おかげでよく分かりました」って感謝の気持ちを述べながら借りたスクラップブックを返していました。そしたらある時「お給料をいただいております」と言い出したんです。お仕事をしていると思ったんですね。困ったなと思って、それこそ工夫とか演技がいるんです。私2つのことを考えたんです。ひとつは家族からわざわざもお金をいただいて、「わずかですけど、これがお給料です」とする方法。なかなかうまくいってない家族でしたから「悪いんですけどボランティア精神でお願いします」といったら、「そうか」と納得してくださったんです。それからお給料のことは言わないで作ってくれるようになったんです。今、姑にやってもらっているのが庭の水やりです。やるのとやらないのがあるし、1日に何回もやるから腐らしたりとかしますけど、覚悟するんです。「つぼみがついてきた」「きれいな花が咲いた」って喜ぶますし、それが仕事になって自分が役に立っていると思ってくれるのを良しとして、「花が枯れてもいい」とこっちが腹をくくるわけです。今、強い野生のシクラメンとかを探して置いているんですけど、こっちが思っているように枯れさせないように水をやってくださいとかっていうのはもう無理です。夏でも3時ごろに水をやるんです。「朝早いほうがいいんやけど」とか思うんですけど、時間がわからないから仕方が無いと思っています。

生きようと懸命に努力している姿

大部分が介護ですけど、暴力行為だとか、すごい興奮状態とかは精神科のお薬がとても効くときがあります。せん妄状態とかもね。だから医者に相談してください。そのかわり副作用も出やすい場合があります。どういう副作用が出るかということもよく聞いていただきたいです。大部分は介護がメインです。最終的には「痴呆性老人というのは、痴呆というハンディキャップを持ちながらもその中で何とか彼らなりに生きようと懸命に努力している姿。あるいは、それで困惑している姿」としてとらえてあげてほしいと思います。

社会保障審議会 介護給付費分科会

第4回介護給付費分科会(1月23日)

第4回分科会では介護療養型医療施設、訪問看護、訪問リハビリなど医療制度との並存的な介護報酬の実施状況とその論点について資料提供がなされました。また、居宅療養管理指導の実施状況について資料提供がありました。審議会では今後介護報酬の検討にあたって事業団体ヒアリングおよび介護事業経営実態調査を行うことを決定しました。

第5回介護給付費分科会(2月13日)

第5回分科会の検討テーマは「介護老人保健施設と短期入所生活介護・短期入所療養介護の報酬体系」でした。介護老人保健施設等の介護度や人員配置の違いによる報酬の加算・減算のあり方や在宅復帰に向けた報酬体系上の入所時・退所時加算などの誘導措置のあり方について審議されました。また資料として、介護保険施行以降介護老人保健施設入所者の在所日数が長期化している状況が明らかにされ、高齢者の自立生活支援・在宅復帰を基本理念とする老健施設のあり方について、「入所者の高齢・重度化の進行」という実態を踏まえつつも、在宅に向けた自立支援のインセンティブの付与や、在宅の医療体制・リハビリ体制の整備等の必要性が検討されました。

短期入所については、介護上の困難度の高さを

踏まえた入所時加算のあり方、個室・ユニットケアの費用負担のあり方について介護保険の本来機能との関連での意見が出されました。



さらに、各サービス共通の課題として、支給限度額を越えた利用者の属性や理由、限度額をぎりぎり越えない利用者の状況(サービスを我慢しているのではないか)について、データ分析が必要、などの意見が出されました。また、「措置」について、虐待やさまざまな理由で緊急な対応を要して「入所措置」したケースについて、実態を明らかにし、介護保険で対応できないケースへの体勢整備を図ることが必要との意見が出されました。

転換型老健施設について「異論」続出!

また、第3回で出された、「療養病床の介護老人施設への転換特例について(案)」が再度審議されましたが、大半の委員からは、「安易な特例老健の導入は介護保険の命取り」、「医療保険の財政負担を介護保険に転嫁するもの」、「医療施設退院後の受け皿は、在宅にするべき」、「転換老健は短絡的」、「療養型医療施設の介護保険から切り離すべき」などの意見が続出しました。

今回は、2002年3月25日です。グループホームやケアハウス、福祉用具等が審議テーマです。なお、4月にはヒアリング等があり、いよいよ介護報酬の改定に向けた第2ラウンドの本格審議に入っていくことになります。審議会の審議方法は既に報告したように、各テーマを集中議論し結論を出していくのではなく、全体的に全課題について月1回のペースで意見交換し、第2ラウンド(4月以降)で結論に向けテーマを絞って集中議論していく形になっています。

自治労は、連合選出委員を通じて各回ごとの検討テーマに沿って必要な見解反映の努力を行なってきています。今後も介護保険制度の充実・介護報酬基準の改善と市町村介護事業計画見直しに向け取り組みをさらに強めていきます。

4月以降に議論が本格化していきそうです。「Well Care」では、今後も社会保障審議会介護給付費分科会の議論内容を取り上げて報告していきたいと思っております。

INFORMATION

「要介護」でも一生住める新型ケアハウス
厚生労働省導入へ「特養」待機解消にも
老後の住まい整備の一環として、要介護の高齢者が生涯住み続けられる新型ケアハウスを導入する方針を決めた。

設備・人員配置基準を個室型特別養護老人ホーム（特養）と統一、PFI（民間資本による社会資本整備）による建設を促進することで、都市部での特養待機者解消にも役立てたい考え。

身体的な障害が軽い高齢者が入所する従来型のケアハウスでは、重度の介護が必要になった場合は退去を迫られることが多い。新型ケアハウスは、少人数で個別ケアができる「個室・ユニットケア方式」で設備基準を個室型徳用と同じに設定。さらに入居者3人に対して一人の介護スタッフ配置を義務付け、身体が自由がきかなくなっても、介護を受けながら暮らし続けられる仕組み。（2月13日 東京読売新聞より）



ヘルパーの本音が明かす
介護現場の真実

ヘルパーにもいわせて！

【 聞き書 】介護ヘルパー白書

高齢者を寝たきりにさせるのも、生活にはりあいをもって生きてもらうのも、介護ヘルパーの腕ひとつ。ヘルパーは何を考えて日々の介護に従事しているのだろうか。ヘルパーの本音が明らかにする介護現場の問題点。自治労介護労働ネットが総力をあげてバックアップした一冊。

- 第1章 ヘルパーの悲鳴が聞こえる
- 第2章 人を生かす介護、ダメにする介護
- 第3章 ケアマネージャーにはなったけど
- 第4章 介護の世界へ転身して
- 第5章 窮鼠猫を噛む - 自立する介護ワーカー -

牧坂秀敏 著 日本評論社 本体価格 1680 円

介護に関する情報の提供や
情報交換のコーナーです。

自治労京都介護福祉ユニオン主催

第7回ケアワーカー交流会 開催

とき：3月17日(日)

午後1時 受付

午後1時30分～4時30分

場所：ハートピア京都 第5会議室

京都市中京区竹屋町通烏丸東入る清水町 375

TEL 075-222-1777

京都市営地下鉄「丸太町」駅下車すぐ

講演：「痴ほうによりそう介護を学ぶ」（仮題）

（全3回の連続講座の第1回です）

講師：小澤 勲さん（精神科医/種智院大学教授）

参加：先着 50 人まで。参加費は無料。

参加希望やお問い合わせは、
自治労京都介護福祉ユニオン

TEL 075-252-5932

FAX 075-231-4918



ご相談ください

じちろうの

介護ワーカー
サポートダイヤル

0120-768-068

ひとりごと…

ようやくホームページがスタートしました。これまで以上の情報発信ができると同時に、みなさんからの公共サービスユニオンへの要望やご意見、ときにはお叱りも掲示板（BBS）を使って身近になることを期待しています。・・・お叱りはあまり無いようにがんばります。（M）